



ROTARY CLUB OF

# NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN

2650

No. 2312

2018. 3 . 22

創立 1969年(昭和44年)12月13日

例会日 毎週木曜日18:00より

事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地

例会場 奈良ロイヤルホテル内

TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2017~2018年度  
国際ロータリーのテーマ

2017~2018年度  
地区のスローガン



ロータリー:  
変化をもたらす

## 愛着と誇り

国際ロータリー会長  
イアン H.S. ライズリー

RI第2650地区ガバナー  
田中 誠二

会長	有馬 康明	副会長	追山 重法		
幹事	川野 隆祐	会計	猪上 正孝	会場監督	榎木 晋作
理事	追山 重法	理事	奥田 裕一郎	理事	佐川 寛一
理事	小原 壮一	役員	大濱 正徳	会報委員長	金田 宗寛



2017~2018年度 内輪会  
グランドチャンピオントロフィー

### 今月は 水と衛生 月間です

第30回(2312回)例会プログラム平成30年3月22日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「 奈良西RCの歌 」
3. 来訪者紹介
4. 出席報告
5. 会長の時間・会長報告
6. ニコニコ報告
7. 委員会報告
8. 幹事報告
9. 第2回家庭集会報告会
10. 閉会宣言 点鐘

本日の担当事務員: 杉山、藤原

第29回 (2311回) 例会報告 2018. 3. 8

### ソング

「 週に一度 」

### 来訪者紹介

乗上勇翔様 龍谷大学農学部 (本日の卓話者)  
 小西真美様 奈良東RC  
 谷口宗彦様 奈良東RC  
 コルネ・ヌマイヤ君 2017~2018年度 国際青少年交換受入学生

### 出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算 2311 回	45	5/11	29/34	5	87.2%
通算2309回修正	45	6/11	25/34	9	77.5%

## 会長の時間 (有馬会長)

みなさんこんばんは。3月は「水と衛生月間」です。私たちの住んでいる地球は、「水の惑星」とも呼ばれていますが、地球の表面の3分2は水で覆われていて、およそ14億立方トンの水があると言われています。しかし、そのうちの97,5%は海水であり、淡水はわずか2,5%しかありません。しかも、この淡水の大部分は南極や北極地域などの氷や氷河として凍っており、凍っていない水は地下水として存在しているため、人が容易に使える水は全体のわずか0,01%にしか過ぎません。私たちにとって、水は毎日の習慣に欠くことのできないものです。朝、起きてトイレに行き、顔を洗って歯を磨きます。キッチンへ行き、コーヒーやお茶を飲む。すべて水の恩恵を受けています。しかし、世界の中には、こうした習慣とは無縁の地域が数多く存在しています。きれいな水、トイレ、衛生設備が無い日常を送っているのです。



世界には、RIの資料によると十分な衛生施設を利用できない人々が25億人以上います。また、汚染された水で下痢疾患を患い、命を落とす子供たちが毎日3,000人(20秒に一人)いると言われています。RIは、「水と衛生」に対して、地域社会が長期的に水を確保し衛生施設を維持できるよう支援するほか、水と衛生に関連する研究支援、人材教育にも力を入れています。きれいな水は、人間の基本的ニーズの一つで、特に子供たちがより健康的で、実りある生活を送ることを可能にします。RIは、井戸を掘ったり、雨水貯蔵システムを設置したりするだけでなく、その設備を維持する方法を地域の人たちに教えてきました。飲み水が無いために亡くなる人は少ない一方、汚染された水を飲むことによって病気にかかる人は数百万人に上るため、発展途上で衛生設備の整備にも取り組んでいます。世界に目を向けますときれいな飲み水が利用できない人は7億4,800万人います。またアフリカの僻地に住む女性たちの中には毎日6時間かけて水を汲みに行かなければならない人もいます。RIでは、誰もが安心して飲める衛生的な水を世界の人々が手にできるという目標を2030年までに行うことを掲げています。3月22日は「世界水の日」です。この水の重要性に付いて改めて考えたいと思います。会長の時間でした。

## 幹事報告 (川野幹事)

- 例会変更情報は表に貼っております。またHP・会員ページにもありますのでご覧ください。
- 地区より、県下親睦ゴルフ大会において参加クラブ様より「ロータリー希望の風奨学金」に対する寄付の御礼が届いております。
- 地区より、先般の「台湾東部地震」に対し当地区にて「地区災害対策基金特別委員会」において協議され、復興並びに被災された方への支援を決定した報告がございました。特別会計「災害対策基金」を活用させて頂くとの事です。
- 次週、3月15日は(定款細則8-1-Cにて)お休みになります。例会はございません。次回の例会は、3月22日です。第2回家庭集会の報告発表となっております。各リーダーの皆様、宜しく願い致します。リーダー欠席の場合はサブリーダーにして頂きますのでお願い致します。

## 委員会報告

- 総務委員会 渡邊委員長  
・3月号ロータリーの友の紹介  
3月は水と衛生月間です。横書きページp7~15に特集記事が載っています。日本各地のRCが東南アジア、南アジアの国々に衛生的な水を供給するための取組みが紹介されています。またp30~34には次年度国際ロータリー会長バリー・ラシン氏の指定記事が掲載されています。次年度のテーマは「インスピレーションになろう」です。また縦書きページSPEECHは「今からはじめる、長生きのための食生活の秘訣」(笠井奈津子氏)についてです。基本は、主食・主菜・副菜・汁物に、バランスよく良質のものを、食べすぎず飲みすぎず、必要量を楽しく取ることです。ご一読ください。

## ニコニコ報告

### 有馬康明会長

乗上様、本日の卓話楽しみにしております。  
谷垣嘉輝、猪上正孝、相澤万裕子、榎木晋作、  
笹本麻琴、浅野晋良会員

乗上様、本日の卓話楽しみにしています。  
ニコニコ。

### 植野洋志会員

乗上君、卓話ありがとうございます。  
奈良東ロータリークラブ 谷口宗彦様  
本日メイクアップで来ました。お世話になります。

## 「 出会いとアフリカ 」

龍谷大学 農学部 乗上勇翔 様

まず、私がこの交流に行くきっかけとなった団体とバックグラウンドを少し話したいと思います。

Hippoファミリークラブ。これが私の所属している団体です。ここでは赤ちゃんが自然と母語を話せるようになるように勉強せずに習得しようという団体で、始めは7ヶ国語から始まり現在では21の国や地域の言語を多世代、多様性の人間の輪で育みどんな人間にも心を開ける人間を育てるというものです。週1回のファミリーにフェローと呼ばれるリーダーはいますが先生はいません。

ファミリーは日本全国に200ヶ所ありいつでも参加することができます。

私は母の意向で生まれた時からこの団体に所属しており、たくさん海外の人の受け入れをしたり、小5で台湾 小6でロシアにそれぞれ二週間、大1の夏に上海へ二週間ホームステイをしました。

今回の交流は中部でフェローをしている上斗米夫妻のもとにホームステイしていたカメルーンの青年メンジさんが帰国して生まれた子供に旦那さんの名前を付けたのがはじまりでした。上斗米夫妻はカメルーンにできた孫に会いに行くことを決めメンジさんはカメルーンでヒッポをすることを望んでいたのがたくさんの人を巻き込んでいくことになりました。

そして、カメルーンの二つ隣の国のトーゴに半年間行っていた関大の学生おーちゃんが再びトーゴに半年行っているののでそこで日本文化を紹介したいということでジャパンフェスティバルをすることになりました。私はおーちゃんの話聞いた時からアフリカに憧れて、大学生の間に行こうと思っていました。今年のびわこ合宿でこの交流に誘われ、行くことを決めました。

11月22日成田空港で一緒に行くメンバーと会いました。高校生1人 大学生1人 20代が1人その他はほとんどがおぼちゃんの計16人。そして30人ほどの見送り隊。アディスアベバまでは20時間ぐらいかかりました。飛行機の中で皆初めてのアフリカにワクワクし思いの丈を語り合いましたが時間がありませんほとんどは眠っていました。その時、想像していたアフリカは地平線まで続く赤土の道の通りにポツポツと木や民家があり、ガスも電気も水道もない場所を想像していました。アディスアベバでトランジストしてヤウンデ(カメルーン)までは3時間かかりました。ゲートを超えるとメンジさんを含める50人を超えるホストファミリーが迎えてくれました。ヤウンデのホームステイは5日間しかなく、その中に小学校への日本文化や遊びHippoの触れ合い、パーティー、JICA、日本大使館への表敬訪問などいろいろなイベントがありました。空港でホストとあったのち車でそれぞれの家に別れました。初めて目にしたアフリカの町並みは想像していたものとすこし違いました。まず、ヤウンデは標高が750mの高地にあり山ゆえに道はジェットコースターのようにアップダウンがあります。ほぼ赤道に近いので暑さを凌ぐためにこの高地に作られただけあって乾季でも25℃と、とても過ごしやすい気温でした。

家に着くと大きな緑の門がありクラクションを鳴らすと中から男の人が開けてくれました。そして、玄関には家族がスタンバイしていて私が着くとウェルカムソング、ケーキ入刀やハグをして迎えてくれました。家はお屋敷と呼べるものでとても大きく私に日本の自室の3倍の広さはあるトイレシャワー付き部屋を貸してくれました。家では5カ月の双子と遊んだり流れる音楽と一緒に踊ったり折り紙を教えたりしました。家の中では基本電気はつけず、街灯も少ないので暗くなったら眠り日が射しニワトリの声で起きるスローライフを満喫しました。

食事はトウモロコシを引いた粉を練ったコムに肉や魚が入ったソース付けて食べます。いつもフォークとナイフは用意していましたがホストも子供も手で食べるので真似してたべました。指は右手の親指人差し指中指の三本だけを使うのが難しかったです。シャワーは部屋にありましたがほとんど出ず、バケツに水を溜めて体を洗っていました。言語は公用語のフランス語と250を超える部族語が話されていました。家族とはフランス語と英語でコミュニケーションをとり、部族語のオク語を教してもらいました。

小学校ではソーラン節を踊ったり、じゃんけんを教えたり、日本文化を教えたりしました。みんな元気いっぱい人懐っこくハイタッチをしていると50人ぐらいに囲まれていました。騒がしくなってくると先生が注意するとみんなピタッと止まりとても賢かったです。アフリカの学校は平屋の校舎に広い校庭を想像していましたがヤウンデの人口密度は大阪より高く、校舎は石造の2階団地のようなもので校庭はありませんでした。

JICA訪問ではアフリカに来てから初めてのエレベーターやエアコンを懐かしみ、局長の話やマダムステラというビッグマダムからJICAのプログラムでもう一度カメルーンに来てくれるのを待っていると何度も何度も言われたり、互いの団体の今までのつながりを語ったりしました。

日本大使館への表敬訪問では大使のお話を聞いたり、それぞれの家の部族語で自己紹介すると大使がこのカメルーンをこんなに深く感じ楽しんでくれるのに感動してもらったりしました。

パーティーではソーラン節をしたりアフリカンダンスと一緒に踊ったり上斗米夫妻とメンジさんの出会いと交流への発展などのパワーポイントをしたり、三味線で桜を合唱したり、折り紙教室や着物の着付けをしました。

一日予定のない日にはホストと子供とジョギングしてヤウンデの町並みを見ました。先ほど言った通りヤウンデは坂続きの町にとっても人口密度が高く道は車であふれています。渋滞もひどく15分で行ける道を車で一時間半かかるほどピーク時は混みます。その車もどれもこれもボロボロでフロントガラスは割れているサイドミラーは折れている、酷いものだとナンバープレートがないものまでありました。

そして5人乗りの車で8人乗る乗り合いタクシーなどがあっても警察というものがいないのか規制されているところを見たことはありません。信号機もありませんでした。

そして、なにより酷いのがごみ問題です。赤土の中にはごみが混ざり異臭を放っています。ポイ捨てが当たり前で清掃する人もいません。家を出たごみは家でもやします。ビニールなども一緒に燃やします。でも、そこに住む人々は明るく常に笑顔です。町で出会う子供たちは元気いっぱい寄ってきて遊んで遊んでと迫ってきます。日本は忘れてしまった人間関係が暖かかったです。

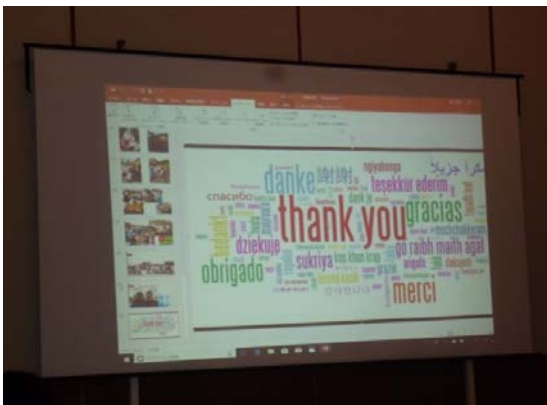
次にカメルーンを離れロメ(トーゴ)へおーちゃんと再会し、ロメのコンベイさんのお宅で一泊。その夜にロメでの交流パーティーをしました。ロメの人はダンスや歌をして一緒にしましょと誘いかけても椅子に座ったままの人が多く、活気のあったヤウンデと対照的で近くの国なのにこんなにも違うのだなと実感しました。そのときロメでは大規模なデモがあり、運転手さんも3日前に首筋を撃たれたとあって町のあちこちで交通規制がされていました。

ロメから車で二時間のパリメという町でチンドン屋をしながらチラシ配りをしてジャパンフェスティバルの宣伝をしました。この時、パリメに大統領が来ていてデモが起きているのでデモ隊のシンボル赤のシャツと間違われるハッピーを着ることができませんでした。

パリメで一日だけのホームステイがありました。ホストのココは野球の練習に行くということで私は実家に預けられていました。そこは土塀で囲まれたサッカーグラウンドほどの敷地に小屋が4つあり、ヤギやニワトリ、犬が放し飼いされています。家族は野外に椅子を出して過ごしていました。そして、トウモロコシをひいた粉でコムを4時間かけて作り、1食50円売りに行く生活をしていました。次の日の朝も同じことをしていたので一日に二回作って売る生活をしているのだと思います。カメルーンの豪邸と比べると原始的な生活を体験できたと思います。

ジャパンフェスティバル当日の朝16人の日本人で400人前のカレー作りをしました。問題は包丁が一本、ピューラーが2本しか調理道具がなく、機内食のプラスチックのナイフや型抜きで大量の野菜を切りました。そして、ジャパンフェスティバルが始まり40人のモデルさんに浴衣や着物を着せファッションショーをメインに日本文化のブースをして、カレーを配って終わりましたが、ブースには人が殺到し折り紙はまともに教えられず、カレーは皆我先に状態で全く並ぼうとせず、大混乱。いろんなハプニングがありましたけど何とか終わりました。

最後に日本でふつうに生活していればまず行くことのないアフリカに訪れたたくさんの人に出会い、今まで育ててくれた親への感謝のこころが生まれたのが一番の収穫だったと思います。



第31回 (通算2313回)例会予告  
例会日 平成30年3月29日(木)

卓話：龍谷大学 文学部非常勤講師 檜崎勝則様  
「こんにちは」の「は」の発音はどうして [wa]？  
— 「けふ」と書いて「きょう」とどうして発音するの？—